

「声に出そう！読んでみよう！絵本やお話」
～本を読んで元気になる講座～

浜田市立石見公民館

1 浜田市立石見公民館の概要

(1) 立地

石見公民館は、浜田駅から近い市の中心部と緑豊かな中山間地域（5分館）の両方を受け持つ浜田市で一番大規模なエリアを有する公民館である。エリアには県立大学や中央図書館、福祉センター、警察署などの公共施設や幼稚園（保）から大学まで園児、児童、生徒、学生が多い文教地区でもある。

〈エリアの人口と世帯数、高齢化率〉

- ・人口 12,691人（2018年12月現在）
- ・世帯数 6,394世帯
- ・高齢化率 30.53%。

（浜田市全体の高齢化率 36.23%）

浜田市全体と比べると若い世代が多いが、着実に高齢化は進んでいる。

(2) 利用状況

石見公民館は、毎日延べ60名～70名の利用がある。その中で、シニア世代の女性の姿が多い。仲間を作り、生涯学習を続けている。人気のある講座は毎回30人～40人が参加する介護予防を目的としたものである。また、絵手紙やペン習字、手話、韓国語、囲碁やパソコン教室など活発に活動をしている。しかし、長年続けている生涯学習を地域貢献に結びつけている方は少ないと感じていた。

2 事業の趣旨

公民館の活動の一つに、地域ぐるみで子どもを育み、子どもも地域（大人）も高まり合おうを基本理念とした「はまだっ子共育プロジェクト」（学校支援・ふるさと教育、放課後や休日の支援、家庭教育支援）

がある。この取り組みには、地域の方の協力（ボランティア）は不可欠であり、1人でも多くの方に知ってもらい協力を呼び掛けたい。それと同時に高齢化の進む地域でもあるので介護予防も兼ねたいと考えた。そこで公民館で学習を続ける、まだまだ元気なシニア世代を巻き込んだ無理のないボランティア活動（社会貢献）を生活の一部に取り入れる人づくりをねらいとした、「声に出して本を読む、読み聞かせボランティア」の人材育成に取り組むことにした。

3 具体的な取組内容

(1) 「声に出そう！読んでみよう！絵本やお話」～本を読んで元気になる講座～

ア 3回の実行委員会

浜田市中央図書館、浜田市健康長寿課、地域の絵本講師3名と協働して行う。また、浜田市社会福祉協議会に協力を依頼する。

イ 6回シリーズの講座（18名参加）

場所：浜田市立中央図書館 多目的室

内容：①介護予防観点 10分間トレーニング

②子どもと読み聞かせの大切さ

③読んでもらう事の心地良さを知る

④声に出して昔ばなしを読んでみる

⑤絵本と紙芝居の読み方の基本

⑥選書の大切さと練習



グループに分かれて読み聞かせ練習の様子

ウ 読み聞かせ実践体験（15名参加）

講座終了後、4か所での体験を実施
体験中は、お揃いのエプロンを着用

- ①高齢者サロン（概ね70歳以上対象）
- ②浜田市立中央図書館（幼児～小学生対象）
- ③放課後児童クラブ（1年生対象）
- ④子育て広場（0歳～3歳の親子対象）



放課後児童クラブでの読み聞かせの様子

エ サークル活動

実践体験を通して仲間意識が強まり、
月に1回集まるサークルが立ち上がった。

- 内容：①図書館で本を借りる
②自宅で練習
③サークルで披露、意見交換、
次回、希望の実践場所を決める



サークル活動の様子

4 評価と成果

・講座に参加するまで、本とは無縁な生活をしていました方、本が好きで自宅で一人楽しんでいました方、読み聞かせを小学校でしているけど、もっと学びたい方の参加があった。絵本の持つ魅力を伝えた講師に引き込まれ、参加者は順調に次のステップに進む事が出来た。

・読み聞かせボランティアをする事を最初はハードルが高いと感じていた参加者が、実践先で熱心に聴く高齢者さんや子どもたちの姿に出会い、自信を持つ事が出来た。

・地域講師にとっても、今後に繋がる経験となった。

・講座では毎回、保健師の指導で発声、呼吸、滑舌、柔軟体操、記憶ゲームなどを行い、硬くなりがちな講座を和ませるウォーミングアップにも繋がった。

・浜田市立中央図書館では、平日の午前中、子どもの本のコーナーにおいて、来館の親子に読み聞かせをするボランティア活動の取組みが始まった。



中央図書館 ボランティア活動

5 今後の課題と見通し

(1) 課題「サークル活動の自立」

現在、公民館の主導で月に1度集まっているが、今後はリーダーとなる方を中心に活動をする事。

(2) 見通し「それぞれの力量に合わせて」

・読み聞かせボランティアとして活動される事と同時に「はまだっ子共育プロジェクト」の推進についても説明をした。地域に必要とされるボランティア活動に参加する方が増える事を期待したい。

・本の読み聞かせを通して、健康的な暮らしに繋がっているのか検証したい。

（文責：主事 江木眞由美）